

先週の回答



言うのも何だけど』の前置きはつけるものの『何しろ頭の回転が早くて、ツートン言えばカーで、自分の口から言うのも何だけど、スタイル抜群の器量よしの別嬪』と自分の女房を自画自賛、吹聴する男がいたわけ。自分の女房なんてのは他人に褒められても、『いやあ、大したことないよ、あんなものは』って謙遜してはじめて、きつといい奥さんなんだなって思われるもんなんだよ」

「で、その奥さんは？やっぱりスタイルのいい美人だったの？」

「どっから見ても、ブスの丸太ん棒」

「自分の描いた絵に自分が賛を書くことだ」

「賛って？」

「賛は、絵画に添える褒めことばの推薦状のようなもの。他人に書いてもらうのがふつーだ」

「といたしますと、その賛とやらを自分で書くのは」

「みっともない恥知らず」

「他人に褒められてはじめて評価が定まるのに、誰にも褒めてもらえず、自分で褒めて響きをかうってやつですね」

「あくまで自画他賛でなくてはいい。だいたい自画自賛は馬脚をあらわすのが相場だ」

「たとえば？」

「『うちの子、誰に似たのかしら、ちっともお勉強しないのに東大に合格いたしましたの、おほほ』と自分がつくった子を自画自賛する母親がいた」

「で、その自慢の子は、今？」

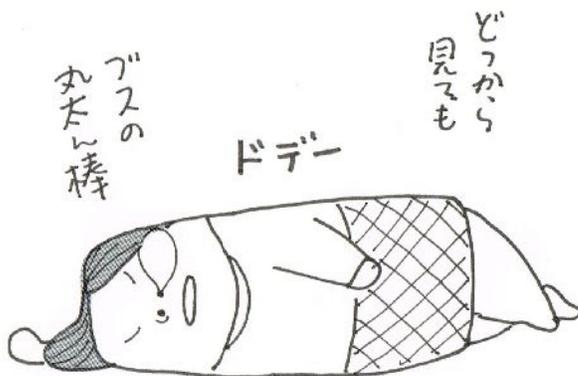
「刑務所に入ってるよ。電車内での痴漢行為の現行犯で」

「『あたくしが作ったモロッコ風地中海カレーですの、みなさんおいしい、おいしいって。今までにないモロッコインゲンを原料に考案いたしました自家製香料の地中海風味のカレーライスですの。召し上がってみて』もそうだったし」

「で、そのお味のほうは？」

「下痢したよ、全員」

「自画自賛する奴は一応『自分の口から



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。